

H型樹形(上か)



▲農園には「ト」とともに、主接結果枝をもうも試している



▲にっこりとジモった紅茶、おもしろい「こり紅茶」といって

仕事かシンプルにな性と手階を考え、若い植り効率化できた。美を積極的に増やしていく輝さんも「随分とわという。全ては長期的なかりやすくなりまし計画の中で進められていた」とこの方法を評する。

国産野菜の商機

価値を創り強みを生かす

= 2 =

（豊）信州森のファームは高原野菜の産地である長野県南佐久郡の南牧村で、露地のレタス、ハクサイ、キャベツ、花豆などを生産する。経営面積は約12ヘクタス、キャベツ、ハクサイを合わせて年間で7万ケース（1ケース10キ）を出荷しており、その多くがカットサラダの加工用だ。

実際に段ボールを使わないことで流通コストを年間で1千万円削減した。農水省の統計によると、レタスの農業経営費は全国平均で10ヶ当たり24万2千円。そのうち、包装荷造り・運搬等料金に必要な経費は4万4千円と約18%を占める。キャベツではさらに増え、約27%にもなる。流通経費の負担は大きく、同法人は段ボールではなく、通いコンテナに野菜を入れ、それを何度も使っている。運送業者のトラックを

チャーターしたり、取引先に引き取りに来てもらい、目標は1日につき500、600ケースを出荷することだ。段ボールは消費者に販売する上で必要なものではなく、運送において必要なもの。代わりに大型の鉄コンテナを使っている産地もある。

安定生産が重要 情報共有も必須

（佃）農畜産業振興機構の調査では、加工・業務用野菜の生産者が考える取引面における課題として「契約の不安定生産が難しい」という回答がトップである。取引先が重視する点においても「数量確保」が突出している。露地野菜には天候リスクが常にあり、同法人は生産量が不足している場合に、不足分を購入しても納入する義務を負う固定数量契約は結んでいない。しかし、菊池さんは「どうしても安定供給できないのが契約取引のポイントになる」と強調する。そこで、ゲリラ豪雨など

「通いコンテナ」使用、輸送も工夫

常用品質を向上させていく姿勢も重要だという。「見た目でなく、味、風味も追求し、品質を向上させていくため、土づくりに力を入れている」と菊池さん。流通経費の削減と安定供給の両立に向けて、日々奮闘している。

直接取引

め、市場を通さず食品加工・製造業者と直接取引している。独自の流通ルートを確認し、直接取引や出荷の



冬どりレタス「シグマ」の入ったコンテナを手にとる菊池さん

ルート確立しコスト削減

情報BOX

うどんこ病に優れた効果の殺菌剤

大塚アグリテクノ(株)は野菜や花き類のうどんこ病に優れた効果を示す、新規殺

菌剤で既存剤で感受性が低下したうどんこ病に高い効果を示す②残効性に優れるため防除回数の低減が期待③優れた病斑拡大抑制作用等により2次感染(病気の拡大)を遮断④5000倍の希釈倍数により果実に



「フロータリーTBMシリーズ」(写真)を新発売する。